



▲二荒山神社菊水祭絵巻（篠崎材木店発行・日野町の歴史より引用）



▲昭和32年の日野町

宇都宮百景の一つに選ばれています。往時をしのびながら、日野町を散策ください。

日野町は、慶長3年（1598年）、蒲生秀行が宇都宮城主になったとき、蒲生氏の出身地である近江国日野（現・滋賀県蒲生郡日野町）の近江商人を東勝寺の跡地に住まわせたことが町名の起こりといわれています。

日野町は奥州街道に面し、荒物屋、呉服屋などの商家が軒を並べ、商人の町としてにぎわってきました。

また、二荒山神社との縁が深く、第四番神祇町として獅子頭を所有しており、二荒山神社の祭礼で重要な

役割を担っています。

第2次世界大戦末期の昭和20年7月12日には、空襲により大きな被害を受けました。しかし、日野町の人々は徐々に焼け跡に戻り、バラックを建てて再び商売を始めるなど、市の戦後復興に力を尽くしました。通りには、「おとぎのネオン」と呼ばれるおとぎ話の名前がついたネオンが灯り、人々はそのネオンの明かりを楽しみながら往来しました。

現在は、緩やかな曲線美の石畳の通りへと整備され、



古いまちの呼び名とごぼれ話を紹介します



日野町自治会

会長 篠崎 昌平さん